

目次

凡例

解題

図版

掛軸	1
卷子	60
まくり	62
書	126
色紙	129
版画	145
硯	180
筆	192
墨	198
矢立	202
文鎮	215
水差	218
印鑑	220
面	224
その他	226
その他目録	229

解題

市川本太郎旧蔵資料 (2)

長野市立博物館が、平成十三年四月十八日に、長野市に在住の市川千江子氏より寄贈をうけた資料群である。総計で図書が六三一件、掛軸ほかの美術品類が二万一七四一点とあるが実数はそれをはるかに上回るものと想定される。

長野市立博物館では、平成二十一年度に緊急雇用対策事業を活用し、資料の整理を進めてきた。資料整理の対象として、本資料群を重点的に扱った。

さて、この資料群は、信州大学教育学部でながらく教鞭を取られていた、故市川本太郎氏が個人で収集した資料群である。この資料群の性格を把握するためには、市川本太郎氏の来歴を述べる必要がある。この略歴については、市川本太郎著『孟子之総合的研究』（市川先生記念会発行 一九七四年）による。

市川本太郎氏は長野県に生まれる。大正十一年三月長野県師範学校本科第一部を卒業。翌月には諏訪郡岡谷小学校訓導となる。昭和九年三月に東京理科大学漢学科卒業。翌年には東京府立工芸学校教諭に着任する。昭和十四年に北海道札幌師範学校教諭、昭和十五年長野県師範学校教諭となる。昭和二十一年に文武教官長野師範学校教授となる。昭和二十五年に信州大学教授兼長野師範学校教授。その後、昭和三十九年三月に停年により信州大学教授を退職。昭和四十一年に国士舘大学文学部教授となる。

主要著作として、『理論的倫理学』（昭林堂書店 一九三五年）、『実践的倫理学』（昭林堂書店 一九三六年）、『忠経衍義』（東洋学術研究所 一九三八年）、『漢字学概論』（明治書院 一九六二年）、漢詩概論（敬文社書店 一九六三年）、『原始儒教の道德思想』（敬文堂書店 一九六七年）、『漢詩の作り方と資料』（東洋学術研究所 一九七三年）などである。

さて、本資料を一見すると、市川本太郎氏の大学教育や私的な時間において収集された資料の多いことに気付く。殊に、本目録に掲載した大量の図書類や古典籍類は市川氏の大学における教育活動や、個人の研究活動を知る上で重要な内容となっている。また、本目録には掲載を見送ったものに、市川氏の家族旅行の日記、個人的に収集したマッチ箱なども含まれ、本資料の理解には市川氏自身の理解が必要である。

なお、これらの資料を長野市立博物館としてどう活かしていくべきか、大きな課題であることを付言しておきたい。